

●製品名● ヒアロコラーゲン®

■特長

- ・国産鶏100%使用
- ・ヒアルロン酸5%以上、コラーゲン80%以上含有
- ・保水効果は人工的にヒアルロン酸とコラーゲンを混合したものに比べると最大、約7倍もの効果が得られています。



■栄養成分(分析例)

ヒアルロン酸	5.86 g/100g	脂質	0 g/100g
コラーゲン	80.8 g/100g	食物繊維	5.5 g/100g
水分	5.4 g/100g	灰分	2.7 g/100g
エネルギー	372kcal/100g	炭水化物(注3)	0 g/100g
タンパク質	93.1 g/100g	ナトリウム	714mg/100g

(注3)炭水化物=100-(水分+タンパク質+脂質+灰分)の算出値がマイナスの場合は0とする。

■安全性

1) 急性毒性試験
LD₅₀>2,000mg/kg

2) 変異原性試験
陰性

3) 残留農薬450項目一斉分析、
動物用医薬品及び飼料添加物50種
一斉分析の結果、全て不検出。

4) ヒトパッチ試験 無刺激性

■原材料表示例

・鶏冠抽出物(コラーゲン、ヒアルロン酸含有)

■摂取目安量

・1日当たり200mg~1,000mg

■化粧品表示名称

・加水分解トサカエキス

■用途

・栄養補助食品(錠剤、顆粒、飲料など)
・化粧品

■粒度

30メッシュパス

■荷姿

(1kg×6)
(3kg×2)

■規格

項目	規格	試験分析法
外観・色調	淡黄色の粉末	目視
性状・臭い	微かな特臭あり	官能検査
ヒアルロン酸	5.0%以上	HPLC法
乾燥減量	7.0%以下	常圧 105°C 3時間
総窒素	10.0%以上	ケルダール法
重金属	20ppm以下	硫化ナトリウム比色法
ヒ素	2ppm以下	グツツアイト法
一般細菌数	3×10 ³ 個/g以下	標準寒天平板培養法
大腸菌群	陰性	BGLB法

○新商品開発や商品リニューアルをお考えのお客様へOEM供給も承ります。
お気軽にご相談下さい。



■このパンフレットは、原料販売の業務用資料で、一般に販売される製品宣伝等にデータ使用は出来ませんのでご注意ください。

株式会社 エル・エス コーポレーション
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-6-6
TEL03(3662)7941 FAX03(3662)7495
http://www.ls-corporation.co.jp
e-mail: request@ls-corporation.co.jp



株式会社 エル・エス コーポレーション

ヒアロコラーゲン®

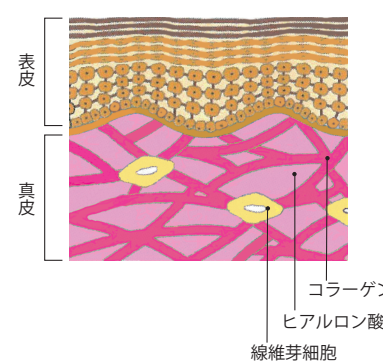
中国やフランスでは、古来より鶏冠は高級な食材として珍重されてきました。鶏冠には肌を潤し美しくする美容効果があると考えられ、貴族女性の間では、スープにして食べられていました。

ヒアロコラーゲン®とは

ヒアロコラーゲン®は、国産の鶏冠から特殊な製法で抽出したコラーゲンに富んだ天然のヒアルロン酸(5%以上)粉末です。製造過程で酵素を使用していないので、これらの成分が自然の形で含まれています。国産、自然組成であることに加え、人工的にヒアルロン酸とコラーゲンを混合したものと比較し、高い保水力を有することが特長です。



肌構造



ヒアルロン酸とは

ヒアルロン酸は線維芽細胞から作られ、細胞と細胞の間を埋め尽くしている多量の水を含む非常に粘り気の強い成分です。1gで6Lの水を保持することができ、肌や細胞にみずみずしさと潤いを与えます。人体では目の硝子体をはじめ、腱や骨・皮膚に分布し、組織細胞を構成する成分です。

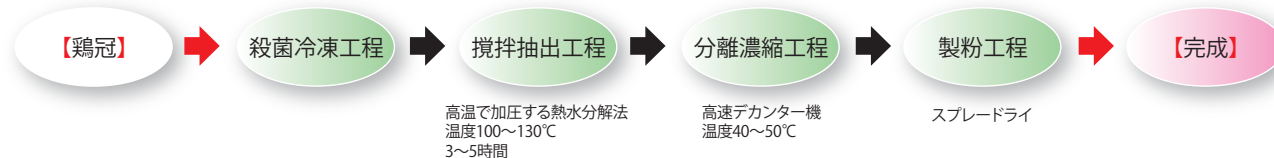
コラーゲンとは

体内にあるタンパク質の一種で、全タンパク質の3割を占めるといわれています。通常タンパク質は細胞の中にありますが、コラーゲンは細胞の外に存在し、細胞と細胞を結合する柱として働き、臓器を支える等、様々な機能を担っています。



ヒアロコラーゲン®粉末

製造工程



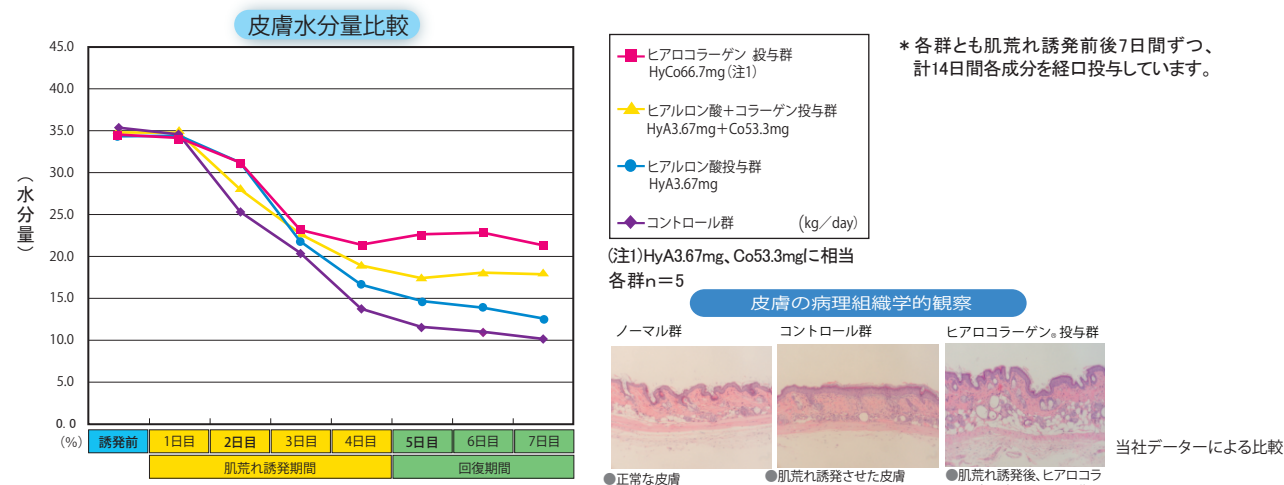
分子量

ヒアロコラーゲン®の分子量分布は、約3,000~30,000に分布しており、また同成分中のヒアルロン酸の分子量分布の多くは、約100,000~600,000に分布しております。

分子量範囲	分子量分布 (%)	微量
1,000,000 以上		2
300,000 ~ 1,000,000		3
100,000 ~ 300,000		9
30,000 ~ 100,000		29
10,000 ~ 30,000		32
3,000 ~ 10,000		14
1,000 ~ 3,000		11
1,000 以下		
合計	100	

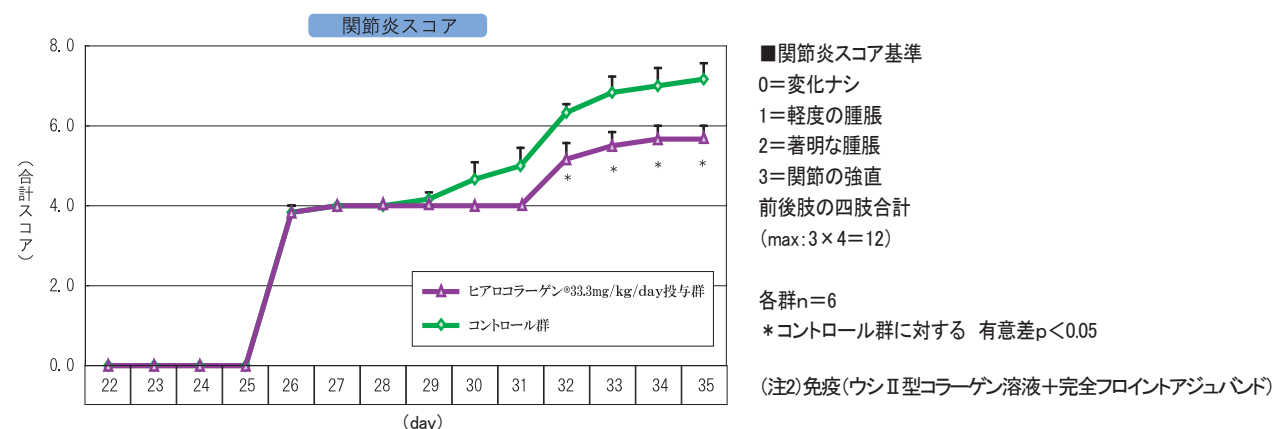
■抗肌荒れ試験

肌荒れを誘発させたヘアレスマウスにヒアロコラーゲン®を投与し、7日間観察しました。ヒアロコラーゲン®投与群の皮膚水分量が最も多い結果となりました。また試験終了後、翌日誘発部分病理組織学的観察ではヒアロコラーゲン®投与群がもっとも角質・肥厚化が軽度であり、表皮再生もみられました。



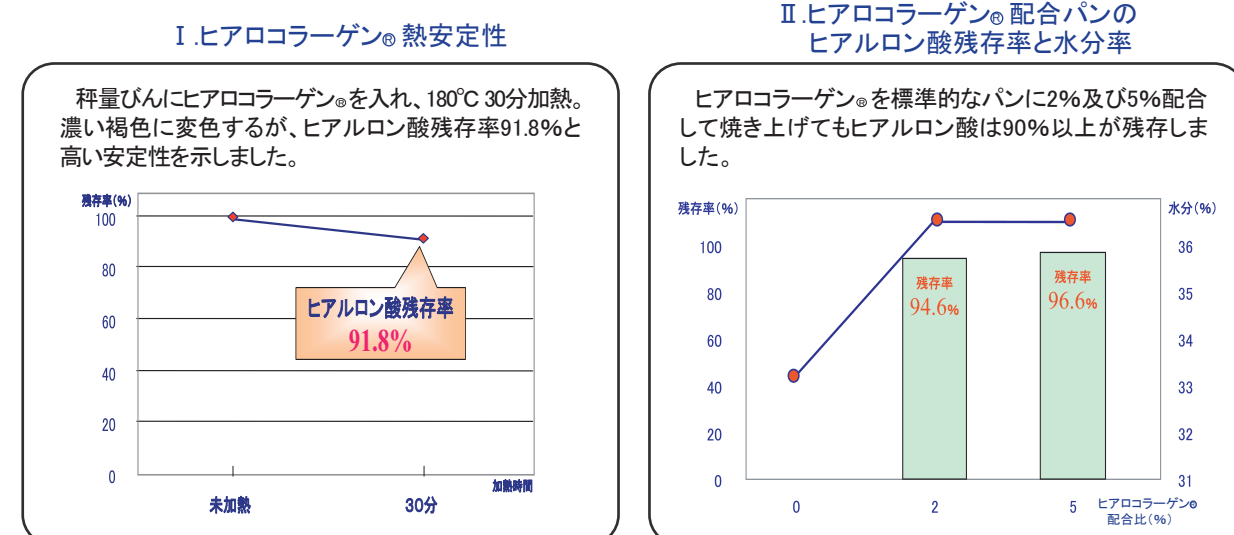
■関節試験

7週齢のマウス(DBA/1J雄)にヒアロコラーゲン®(33.3mg/kg)を35日間経口投与しました。投与開始0日目と21日目に関節炎を誘発する(注2)免疫を背部側尾根部に皮内投与し、下図に示すようにヒアロコラーゲン®投与により関節炎の症状が有意に抑制されました。



■熱安定性試験

ヒアロコラーゲン®を食品に配合する際、ヒアルロン酸自体がどの程度熱安定性を有するかを試験・評価しました。その結果、ヒアロコラーゲン®をパンに配合して焼き上げてもヒアルロン酸は90%以上が残存し、保湿性が向上してしっとりとした食感が確認されました。

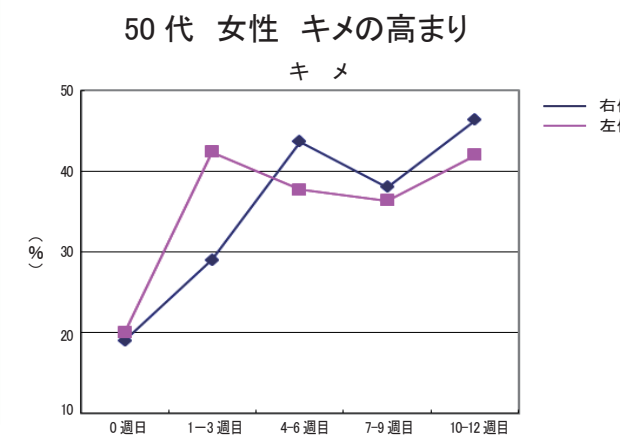
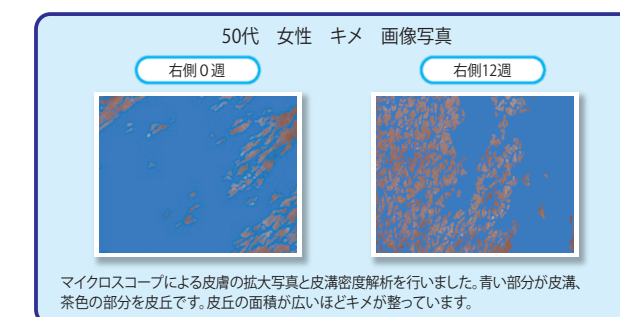
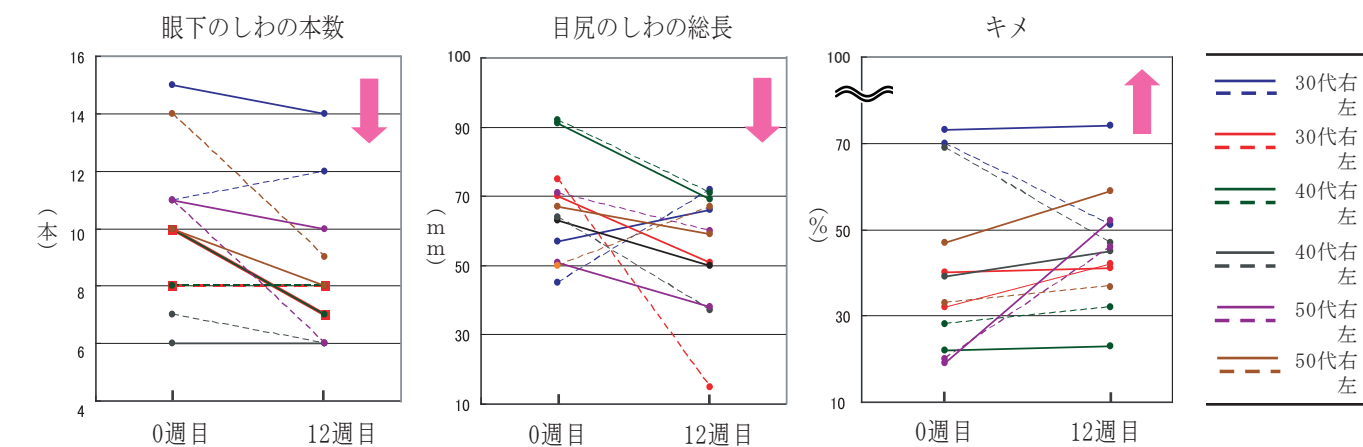


■ヒト美肌試験

30~50歳代の6名の女性モニターを対象に約3ヶ月間(8月~11月)皮膚科専門医協力の下行いました。ヒアロコラーゲン® 600mgを毎日夕食前に経口摂取してもらい、試験開始前および試験開始12週間後に目尻のしわ、眼下しわ、肌のキメの状態について評価しました。評価は、ロボスキナアナライザーを使用して解析を行っております。

その結果、5名の方に眼下のしわの本数・目尻のしわの総長・キメに改善傾向が見られました。

■モニター6名の結果



■このパンフレットは、原料販売の業務用資料で、一般に販売される製品宣伝等にデータ使用は出来ませんのでご注意ください。